

1-12

命のワンスプーン

胃ろうから経口摂取までの道のり

食べる楽しみ

チームケア

特別養護老人ホーム 大 洋 園

介護職員 村上 由利子	介護職員 石原 真由美
東京都青梅市今井 5-2440-141	ディレクター長 黒木 太永
TEL : 0428-31-3666	E-mail : tokuyo@taiyoen.or.jp
FAX : 0428-31-3642	URL : http://www.taiyoen.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	東京都の西端、青梅市という緑と太陽に恵まれた地域で、昭和 59 年 5 月に 100 床の特養として根をおろし 24 年。現在では 160 床のベッドに加え同市内に多くの在宅サービスをも多角的に提供し、地域福祉の貢献に日々全力で取り組んでおります。
----------------------------	--

<p style="text-align: center;">〈取り組んだ課題〉</p> <p>家族の希望にて胃ろう増設以前のような生活を望まれていた。少しでも口から食べてほしいと強く希望され、取り組むことになる。</p> <p>対象者 M 氏 81 歳女性 介護度 5 ほぼ寝たきり H15.1 右前頭葉皮下出血、片麻痺 H18.2 食事摂取量低下となり胃ろう造設 H19.5 大洋園入所 H20.1 まで栄養確保の手段は胃ろうのみ。</p> <p style="text-align: center;">〈具体的な取り組み〉</p> <ol style="list-style-type: none">1. 家族の理解と協力体制を整える。2. 西東京歯科医院 歯科衛生士との連携を図る。口腔衛生指導・口腔ケアを実施する。3. 歯科衛生士より、武蔵村山病院 歯学博士の紹介を受ける。通常、一般外来患者の診察は受け付けていないが、研究の趣旨に賛同され定期的に経過を確認頂けることになる。嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査を受け嚥下口腔内保持にて誤嚥の危険性低いと判断。経口摂取可能と医学的に診断される。4. 施設内では、介護職員・管理栄養士・看護師・生活相談員と情報を共有する。具体的な年間スケジュールを組み、各部署一丸となって口腔ケアと食事訓練を開始した。	<p style="text-align: center;">〈活動の成果と評価〉</p> <ol style="list-style-type: none">1. 経口摂取の実施に留まらず、口腔マッサージを行うことにより、口の周りの筋肉が柔らかくなり会話が成立できる発語が増えた。2. 顔に表情が表れ、味覚が戻り嗜好が出てきた3. 家族もこの取り組みについて大変満足されている4. これまで繋がりがなかった外部の病院・歯科医師、歯科衛生士との連携が図れ、他の利用者の相談も気軽にできるようになった。施設にとって大きなメリットに。5. 施設内各部署との絆が深まり、介護職員の介護に対する意識向上ができた。6. 訓練開始 1 年も経たないが、9 月現在、主食 粥・副食 ミネソナ 各 100g 摂取できるようになった。 <p style="text-align: center;">〈今後の課題〉</p> <ol style="list-style-type: none">1. 一時、摂取量や嚥下能力低下が見られた。併用している胃ろう注入開始時間や、量を検討しなければならない。2. 訓練に 1 時間弱かかるため、ゆとりをもって訓練に当たれる職員の確保をどのようにするか。3. 今後も口からの摂取を継続させていくための計画の策定と、担当者以外の職員の自発的取り組みの促しが必要。4. まだ食事 1 回分相当の栄養量までは摂取できていない。胃ろうの代替となる位の栄養・摂取量確保を実現させたい。
---	--

【メモ欄】